

研究レポート No.881 岩手県農業研究センター

不耕起栽培で飼料用トウモロコシのアレチウリを撃退

【1 成果の概要】

- (1) 図1の播種体系で不耕起栽培を3年間続けると、飼料用トウモロコシ畑のアレチウリ発生本数が減少します。(図1、2)。
- (2) 3年間不耕起栽培した後に耕起栽培しても、アレチウリの発生本数は少ないままです。(図3、4)。

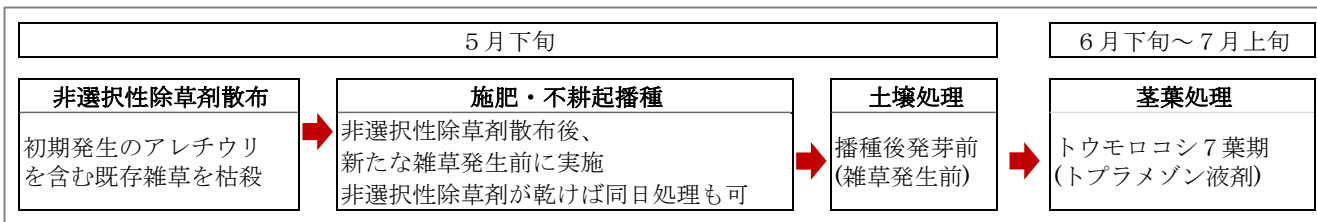


図1 アレチウリ防除のための飼料用トウモロコシ不耕起栽培体系

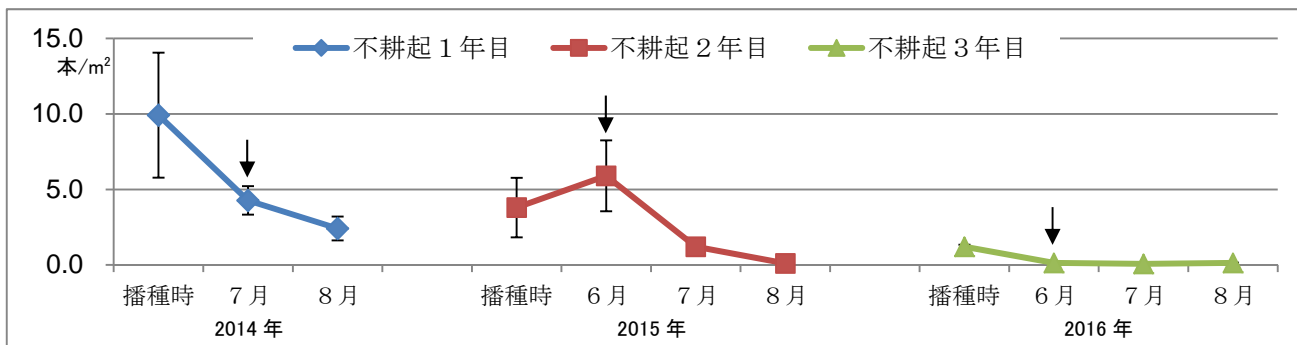


図2 飼料用トウモロコシ不耕起栽培圃場のアレチウリ本数の推移 (↓は茎葉処理実施)

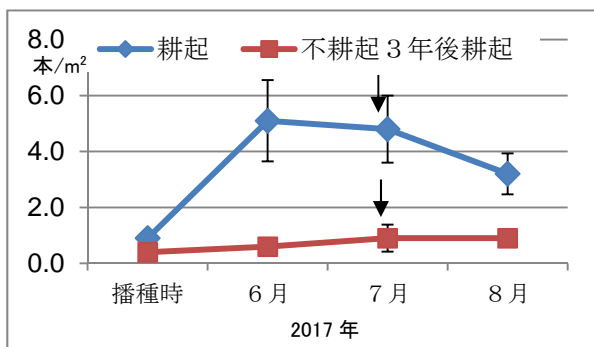


図3 耕起栽培と3年間不耕起栽培後に耕起栽培した区のアレチウリ本数の推移 (↓は茎葉処理実施)



図4 アレチウリが飼料用トウモロコシに絡んでいる様子 (9/27撮影、左：耕起区、右：不耕起3年後耕起区)

【2 効果】

アレチウリで収穫できなかった圃場から、慣行と同等の収量を得ることができます。

【3 留意事項】

- (1) 茎葉処理剤は7葉期まで使用できるトプラメゾン液剤が効果的です。
- (2) アレチウリが発生している農場の未熟堆肥には種子が含まれている場合があるので、十分に発酵させてから飼料畑に散布してください。

担当研究室 畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室
 〒020-0605 滝沢市砂込 737-1 TEL. 019-688-7317 FAX. 019-688-4327